

目 次

1. 施設と図書館の概要	3
2. 指定管理者	3
3. 山内図書館のコンセプト	4
4. 5年間の達成目標	4
5. 山内図書館の現状と課題	4
6. 令和4年度の事業計画	5
7. 予算案（令和5年度収支予算書）	13
別紙1 令和5年度 山内図書館自主企画事業 年間計画表	
別紙2 令和5年度 山内図書館学校連携事業 年間計画表	
別紙3 令和5年度 山内図書館建築・設備保守管理実施予定表	

1. 施設と図書館の概要

施設名	横浜市山内図書館
所在地	横浜市青葉区あざみ野二丁目3番地の2
構造規模	鉄筋コンクリート造3階建 (図書館部分：2階) 地区センター併設(全体 4,433.28 m ²)
延床面積	2147.22 m ²
付帯	駐車場(施設全体で12台、業務用3台、 身障者用1台)



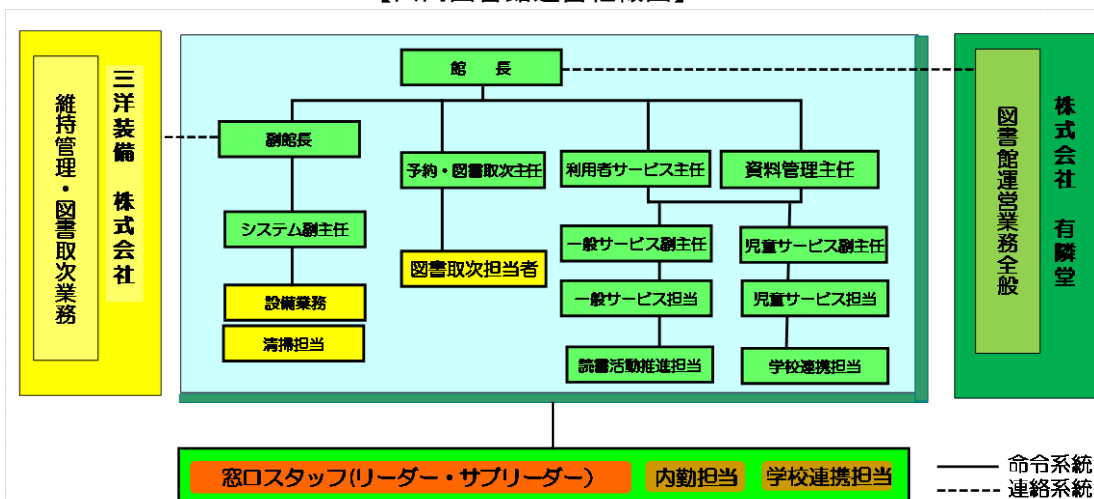
山内図書館は、昭和52年に横浜市内で2番目の地域館として開館しました。駅から徒歩3分の場所にあり、アクセスのよい便利な図書館です。蔵書数は中央図書館に次いで市内2番目(190,895冊 典拠：『横浜市の図書館 2022』)と規模の大きい図書館です。平成22年度から有隣堂グループを指定管理者とする管理運営が行われており、令和2年度から令和6年度の期間も引き続き有隣堂グループによる指定管理運営を行います。

2. 指定管理者

名称	有隣堂グループ
所在地	横浜市戸塚区品濃町881-16
代表団体	株式会社 有隣堂 代表取締役社長 松信健太郎
構成団体	三洋装備株式会社 代表取締役社長 菅生龍太郎
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日

指定管理者有隣堂グループは、「本」を専門とする株式会社有隣堂と「施設維持管理」を専門とする三洋装備株式会社で構成しています。有隣堂は、貸出返却・登録・レファレンスなどのカウンター業務を始め、資料の管理、予約業務、自主企画事業などの図書館運営全般を行っています。三洋装備は、山内地区センターとの共用部分を含む建物管理や日々の清掃業務および図書取次サービスを担当しています。

【山内図書館運営組織図】



3. 山内図書館のコンセプト

「地域」の力を「地域」に還元！ 山内図書館は青葉区民のプラットフォーム

「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」（平成 26 年施行）のもとで、図書館に「地域連携」という新たな課題が示された第二期では、積極的に地域との連携を図ってきました。第三期ではさらに連携を進め、地域コミュニティ創造の担い手として、民間ノウハウ・民間能力を存分に発揮し、インパクトのある事業の創出や、チャレンジ感溢れる取り組みを実践し、地域に根ざしたサービスの拡充に努めます。

4. 5年間の達成目標（令和2年4月～令和7年3月）

指定管理の実施により達成すべき目標は以下の3つです。

- (1) 地域の情報拠点機能を強化し、地域の要望や要請に応えられる蔵書構築に努め、暮らしに役立つ情報の収集・提供を行います。
- (2) 司書が読書活動コーディネーターとして地域との連携をすすめ、地域の読書活動を推進します。
- (3) 快適で楽しい読書環境づくりを促進します。

5. 山内図書館の現状と課題

(1) 青葉区民読書活動推進目標

令和2年度に策定された「第二次青葉区民読書活動推進目標」に掲げた、下記2つの目標を柱として、読書推進活動を進めていきます。

- ①読書活動を介したコミュニケーション力の向上と、区民が本に親しむ環境づくり
- ②読書活動ボランティア相互の連携と、活気ある地域づくり、担い手づくり

(2) 利用状況

		入館者数	貸出冊数 ※	図書取次 貸出冊数	新規登録者 数	自主企画事 業 参加者数
	平成 21 年度	540,679	※ 811,662	92,383	7,043	2,669
I 期	平成 22 年度	549,059	※ 787,102	103,110	6,786	3,446
	平成 24 年度	560,787	※ 719,596	110,857	5,945	4,718
	平成 26 年度	551,121	654,164	105,211	5,921	4,868
II 期	平成 27 年度	543,330	654,705	108,496	5,890	5,241
	平成 29 年度	533,085	634,517	119,395	6,043	4,441
	令和 元年度	506,932	599,724	107,268	5,157	3,841
III 期	令和 2 年度	358,983	531,417	104,144	3,671	843
	令和 3 年度	451,646	663,293	131,695	5,076	1,528

※ 平成 24 年 12 月以前はインターネットによる貸出延長を含む

令和4年度も新型コロナウイルス感染症のまん延状態が続き、山内図書館では感染対策を徹底した上で、開館時間の短縮は行わず年間を通して通常時間で開館しました。その結果、利用者数もコロナ前に戻りつつあります。令和4年の4月からは、貸出冊数が6冊から10冊に増えたこともあり、貸出数は伸びています。同時に図書取次における貸出数も大きく伸びています。自主企画事業については、計画どおりに開催できました。しかしながら感染対策の一環として参加人数をしばっていることから、参加人数はコロナ前の半数程度となっています。

(3) 利用者意見

利用者フォーラムを9月に開催しました。

令和4年度の利用者フォーラムでは以下のアイデアやご意見が出されました。

【人と人とをつなぐ】

- ・児童文学やティーンズ向けの本を楽しんでいる人がリアルに語り合う場をつくってもよいのではないか
- ・おはなしごっこ012に参加して、コロナ禍で家族以外と初めて子育てを共有することができたという声が聞かれた。本と人をつなぐだけでなく、図書館で人と人をつないでほしい
- ・コマを作ったり、おはじきをしたり手を動かす昔の遊びを企画してはどうか。大人も子どもも一緒に楽しむことができる

【子育て支援の広報】

- ・赤ちゃん休憩室をもっと積極的にアピールした方がよい。赤ちゃんが泣いて困っているお母さんをみかけるので、知らせてあげたほうがよい

【倶楽部活動への提案】

- ・音楽関係のジャンルの倶楽部活動があってもよいのでは
- ・オンラインゲームを入口として、歴史や文豪に傾倒していく人たちがいる。ゲームを題材として図書館資料を掘り下げていくしくみを提供できないか
- ・NHKの大河ドラマはSNSに様々な見解が投稿される。リアルに話す場として、会場を提供してはどうだろう
- ・数独や塗り絵など一人で楽しむものを取って倶楽部活動でとりあげる。仲間からのアドバイスやレクチャーが得られるのでは
- ・継続して続かなくても1回だけでも意味がある
- ・倶楽部活動のテーマを公募する
- ・人が集まるきっかけをつくり、バックアップしていく
- ・受け身でただ参加するだけではなく、何か成果物があるとよいのではないか

6. 令和5年度の事業計画

(1) 令和5年度の運営目標

青葉区役所や区内市民利用施設、ボランティアや市民と協働して読書活動を推進します。令和2年度に策定した「第二次青葉区民読書活動推進目標」を軸に、乳幼児から

高齢者まで幅広い世代の人びとが、豊かな読書活動を行うことができるように図書館を運営していきます。新型コロナウイルスと共存していくとされている中、感染対策を継続し図書館を運営していきます。

令和5年度は、ホームページをリニューアルします。

視点	令和5年度運営目標	令和5年度管理指標・数値
ア 利用者 サービス	(ア) 区内の図書貸出施設や団体、ボランティア等と連携して地域の読書活動を推進します	<ul style="list-style-type: none"> ・地区センターまつりへの事業協力 2回 ・乳幼児健診のおはなし会開催 6回 ・市民ギャラリーあざみ野の講座開催に協力 1回 ・修理ボランティアに活動の場を提供 50回 ・読み聞かせボランティアに活動の場を提供 40回 ・ボランティアの養成講座（修理）開催 1回
	(イ) 読書活動推進のために、区内の読書活動拠点のネットワークを構築します	<ul style="list-style-type: none"> ・読書関係団体交流会（青葉区役所との共催） 1回 ・図書取次事業の継続 7施設
	(ウ) 図書館の環境を整備・改善していきます	<ul style="list-style-type: none"> ・照明のLED化 未交換部分 ・出入口設置手指消毒器の交換 2カ所
	(エ) インクルーシブな図書館を目指します	<ul style="list-style-type: none"> ・りんごの棚の拡充 15冊 ・対面朗読の実施 20回 ・世界アルツハイマー月間事業 3本 ・Dボックスの補強 30冊 ・県立特別支援学校への協力 依頼に対応 職業体験 図書館見学 ・スタッフ研修（認知症対応） 1回 ・有料託児サービスの再開 月2回募集
	(オ) 市民の課題解決支援、読書活動の支援となる事業を展開します	<ul style="list-style-type: none"> ・自主企画事業 別紙1参照
	(カ) レファレンス機能を充実させます	<ul style="list-style-type: none"> ・レファレンスカウンター「よろず相談処」への職員配置 常時 ・横浜市立図書館共通利用商用データベースの活用 8種 ・山内図書館独自導入商用データベースの活用 5種 ・オンラインデータベース活用研修 1回
	(キ) 地域資料を継続的に収集します	<ul style="list-style-type: none"> ・青葉区役所におけるパンフレットおよびリーフレットの収集 20回

ア 利用者 サービス		・地域のミニコミ誌や人からの情報収集による地域資料の発掘 適宜
	(ク) 大人の倶楽部活動を継続します	・街あるき倶楽部の活動 4回 ・新倶楽部の起ち上げと活動 4回
	(ケ) 学校への支援を積極的にすすめます	・学校連携事業 別紙2参照 ・ホームページ<学校支援>のページを更新
	(コ) 広報媒体を見直し、効率的に情報を発信します。	・ホームページのリニューアル ページ構成の見直し ユニバーサルデザインの導入 活用されていないページの削除 アップロードの簡易化 ・ブログを活用した自主企画事業の広報と報告 24回 ・SNSを活用した情報発信 ツイッター 随時 ・青葉区役所戸籍課への図書館作成チラシ提供 600枚×12回 ・図書館だよりの発行 4回
イ 業務運営	(ア) コンプライアンスの徹底を図ります	・コンプライアンス研修 1回
	(イ) 防災への取り組みをすすめます	・山内地区センターと合同で行う災害時対応研修 2回
	(ウ) 危機管理、安全衛生管理を徹底し、安心・安全な図書館をつくります	・防犯カメラの運用と図書館スタッフ、設備管理スタッフによる巡回 ・事件事故防止マニュアルの確認と有事初動の確認 ・事件・事故を想定した危機対応研修 1回
	(エ) 個人情報の保護を徹底的に実施し、遵守についてスタッフ全員に周知します	・個人情報保護内部監査（有隣堂プライバシーマネジメントシステム定期監査） 6月 ・個人情報整備・保護点検 10月 ・個人情報棚卸 2月 ・個人情報保護研修 2回
	(オ) 施設・設備の維持管理を適切に行います	・建築物・建築設備の維持管理 通年 ・計画的な修繕
ウ 職員育成	(ア) スタッフへの教育・研修を実施し、能力向上・意欲の維持向上に努めます	・接遇研修 1回 ・人権研修 1回 ・アルバイト向け資料検索講座 1回
エ 財務	(ア) 予算内に経費を抑え、効率的に管理します	・山内堂の売り上げ 10万円 ※3期の実績に基づき算出

(2) 令和5年度の具体的な取り組み

ア 利用者サービス

(ア) 地域の読書活動推進

- ・令和2年度に策定した「第二次青葉区民読書活動推進目標」に沿って事業を展開します。
- ・昨年度より青葉区内の地区センターのまつりが再開されていることから、地区センターまつりへの事業協力を行い、その際に図書館カードの出張登録を行います。
- ・青葉区役所こども家庭支援課と読書活動推進事務局会議を定期的（月1回）に開催し、協力体制を維持します。
- ・青葉区役所で行われる乳幼児健診（1歳6か月）時に、図書館職員が手遊びやわらべうたを交えたおはなし会を開催します。
- ・近隣の市民利用施設「市民ギャラリーあざみ野」と協力して事業を行います。
- ・修理と読み聞かせのボランティアの養成講座を開催します。受講修了者は、ボランティアとして山内図書館や学校図書室で活動してもらえるよう養成します。
- ・令和5年度よりおはなし会のボランティア育成事業を定例開催します。「紙芝居」「わらべうた」の各講座を年度ごとに開催していきます。5年度は「紙芝居」の講座を開催します。
- ・修理ボランティアに活躍の場を提供します。現在活動している2グループには、山内図書館で定例の活動日を設け、本の修理をしてもらいます。学校連携事業にも参加してもらい、受講者の手助けを担当します。
- ・読み聞かせボランティアが活躍できる場を作ります。区内の施設や団体から話し手の依頼があった場合は、読み聞かせボランティアとのコーディネートを行います。また、山内図書館が開催する各種おはなし会に参加してもらいます。

(イ) 読書活動拠点のネットワークを構築

- ・「読書活動団体交流会」を青葉区こども家庭支援課と共催します。図書貸出施設の担当者、読み聞かせボランティア、学校司書等が集まり読書活動の情報共有および交流を進める会とします。令和5年度は山内図書館が主担当となり企画をすすめます。

(ウ) 図書館内の環境整備

- ・LEDに未交換の照明について、LED化を進めます。
- ・2カ所の図書館入口に設置している手指消毒液の容器を、ペダル式のものに入れ替えます。

(エ) インクルーシブ図書館

- ・誰もが利用しやすい図書館を整備していきます。
- ・障がいのある人が利用しやすい本を集めたりんごの棚の拡充に引き続き務めます。
- ・対面朗読の環境を整え、申し込み者と音訳者のコーディネートを速やかに進めま

す。

- ・世界アルツハイマー月間の9月に、認知症関連の講座等を開催します。青葉区の社会福祉協議会、やさしいまちあざみ野実行委員会、青葉区の地域ケアプラザ等と協力して企画立案・実行していきます。
- ・県立特別支援学校2校から、生徒を職業体験で受け入れる予定です。希望があった場合は、小学部の図書館見学の受け入れをします。

(オ) 自主企画事業：年間計画は別紙1参照

- ・年間を通じて課題解決に役立つ講座や展示を開催します。「大人の調べ方講座」や青葉区役所と連携した展示等を予定しています。
- ・夏休みに児童を対象とした講座を開催します。「一日図書館員」「科学講座」を予定しています。
- ・定例のおはなし会に加えて、春と秋および新年の特別おはなし会、おはなし祭りを開催し、子どもたちに図書館への来館を促します。

(カ) レファレンス機能の充実

- ・レファレンスカウンター「レファレンス専用デスク・やまうちよろず相談処」に職員が常駐し、市民の課題解決を支援します。
- ・横浜市立図書館共通で利用する商用データベースおよび国会図書館デジタル化資料送信サービスをレファレンスに活用していきます。各々のデータベースの変更等を速やかに把握し、最新の状態で利用者に提供できるように研さんします。
- ・令和4年度に見直しを行い、以下の山内図書館独自契約の商用データベースを継続します。

- ①日経テレコン21
- ②朝日新聞クロスサーチ
- ③ヨミダス歴史館
- ④官報情報検索サービス
- ⑤ルーラル電子図書館（農文協）

(キ) 地域資料の継続的収集

- ・青葉区役所に出向いて、行政資料やパンフレット、リーフレットなどを収集します。集めた資料は、精査の上、図書館資料として登録していきます。
- ・地域のミニコミ誌『タウンニュース』で紹介された地域資料を入手します。また、地域の人々から寄せられた情報をもとに、郷土資料を発掘し、図書館資料として登録していきます。

(ク) 大人の倶楽部活動

- ・郷土史を学びながら「街歩き」を楽しむ倶楽部を継続します。固定の会員制とせずに、企画ごとに参加者を募集する形で開催していきます。
- ・令和4年に開催した読書倶楽部はあざみ野ブックカフェの中に移行します。あざみ野ブックカフェの中で、「ビブリオバトル」、「Life with Reading」や読書に関連したテーマを取り上げていきます。

- ・新しい倶楽部を起ち上げます。

(ケ) 学校への支援：年間計画は別紙 2 参照

- ・年度当初に各小中学校に対して、学校支援のプログラムを、校長会を通じて配布します。6月の学校司書研修の際、プログラムの内容を再度紹介し、各学校への周知を図ります。
- ・教職員や学校司書を対象に読書活動や学校図書館の環境整備に関する相談に積極的に応じていきます。
- ・ホームページ全体を見直す際に、「学校支援のページ」も見直しを図ります。
- ・中学生の職業体験、高校生のインターンシップ、大学生の図書館実習などのプログラムや学校図書館教育研究会のプログラムに、以下の読書活動推進ツールを組み込んでいきます。
 - ①ビブリオバトル（本の紹介コミュニケーションゲーム）
 - ②Life with Reading（慶應義塾大学井庭崇研究室と株式会社有隣堂の共同開発ツール、「創造的読書」の考え方を言語化し 27 個の言葉にまとめたカード）のワークショップ
 - ③本の楽しみ方カードワークショップ（Life with Reading の子ども版。ワークショップの形態が多数あり、参加人数や学年に応じて新しい形態を取り入れていくことが可能）

(コ) 広報活動

- ・ホームページの全面見直しを行います。
 - ①ページ構成を見直し、シンプルで閲覧者が見やすいものにします。
 - ②ホームページリニューアルに際しては、日本産業規格 JIS X 8341-3:2016 「高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第 3 部：ウェブコンテンツ」に対応し、アクセシビリティの確保と向上に取り組みます。
 - ③情報が古いコンテンツや掲載物については削除します。
- ・ブログを活用して事業の広報を行います。ホームページとの差別化を図り、集客につながる内容とします。月末に翌月の事業予定をまとめて紹介し、月半ばには前月の事業の報告を掲載します。開催された各事業がどのような内容なのか、写真と記事で伝わるように工夫していきます。
- ・ツイッターを継続します。広報活動については、それぞれの実施効果を検証しながら、新たな媒体の活用も含めて検討し、実施していきます。
- ・青葉区役所戸籍課協力の下、青葉区への転入者に図書館サービスのチラシを配布し、山内図書館のサービスを周知します。
- ・紙媒体の広報として『図書館だより』を年 4 回発行します。

イ 業務運営

(ア) コンプライアンスの徹底

- ・法令遵守と倫理の徹底を図ります。職員は、有隣堂のエシックスカードを常時携

帯し行動します。また、年度当初に企業行動指針を基にしたコンプライアンス研修を実施します。

- ・山内図書館の運営情報（「事業計画書」「事業報告書」「利用者フォーラム議事録」「図書館利用者満足度調査報告書」「セルフモニタリング評価書」「横浜市山内図書館指定管理者運営評価報告書」）を、ホームページ上で公開します。

(イ) 防災への取り組み

- ・「災害対応マニュアル」をスタッフ全員で共有します。
- ・併設の山内地区センターと合同で災害時対応研修を年2回実施します。

(ウ) 危機管理、安全衛生管理の徹底

- ・職員会議を週1回開催し、図書館運営上の課題を話し合い改善していきます。
- ・職員とアルバイトスタッフの代表で月1回ミーティングを行い、安全衛生を含めた課題を話し合い、解決していきます。
- ・図書館の両入口付近、および児童コーナーに設置した防犯カメラを運用します。
- ・施設管理者が館内外を巡回します。また、職員は、カウンター業務が終了した際に館内を巡視します。
- ・「事件・事故防止および対応マニュアル」を共有し、有事に素早く対応できるように初動体制を確立します。
- ・山内図書館、山内地区センターと施設管理者の3者ミーティングを年4回行い、危機管理の情報共有を行うとともに課題解決に向けた話し合いを行います。

(エ) 個人情報の適正管理

- ・横浜市個人情報の保護に関する条例及び有隣堂個人情報保護方針にもとづき個人情報を適正に管理します。新入スタッフには個人情報保護に関する取扱いの確認を義務付けます。
- ・有隣堂プライバシーマネジメントシステム監査を6月に行います。
- ・個人情報棚卸（リスクチェックとプロセス分析およびリスク対策）を10月に行います。
- ・スタッフ全員を対象に、個人情報取扱についてテストを行い、取り扱いについての確認研修を実施します。

(オ) 適切な施設・設備管理

- ・建築物・建築設備ともに令和5年度山内図書館建築・設備の保守管理表に基づき点検を実施します（別紙3）。積極的な保守管理を行い、異常が発生する前に予防保全を心掛けます。
- ・設備機器の優先順位をつけ、計画的な予防保全等修繕を実施します。
- ・地震、台風、大雨等の自然災害発生時には、施設の損傷状況を確認して必要な対応をとるとともに、中央図書館企画運営課へ報告する。
- ・清掃・環境衛生管理は、業務水準どおり適切に維持管理を行い、定期清掃ではワックス掛けをし、美観を保ちます。

ウ 職員育成

(ア) スタッフの教育・研修

- ・職員とアルバイトを対象とした下記研修を実施し、利用者対応の向上を図ります。

実施月	研修テーマ	内 容
4月	接客研修 コンプライアンス研修 個人情報保護研修	日常の接客対応の基本を学び、コンプライアンス、個人情報の取り扱いの確認をする
7月	危機管理研修	長い電話や理不尽な要求についてなどの対応の仕方を学ぶ
9月	防災研修 (地区センターと合同)	火災を想定し、避難訓練を行う。消火器の設置場所、使用方法を確認
11月	人権研修	認知症を理解し、認知症の方への対応の仕方を学ぶ
2月	情報セキュリティ研修	情報セキュリティ確認テスト
3月	AED研修 (地区センターと合同)	消防署の指導によるAEDの取り扱い訓練

- ・職員が中央図書館、県立図書館、神奈川県図書館協会等主催の研修に参加し、それぞれの専門性を向上させます。
- ・有隣堂本部と館長により職員及びアルバイトの評価とヒアリングを行い、問題の解決を図り、モチベーションの向上につなげます。

エ 財務

(ア) 効率的な管理

- ・予算内に経費を抑え、効率的に管理します。最低賃金の上昇及び物価高騰を鑑み予算を作成します。

(イ) その他

- ・山内堂は、商品アイテムを見直すとともに、自主企画事業と連動した書籍等の販売により売り上げを伸ばし、目標とする売り上げを目指します。

7. 予算案（令和5年度収支予算書）

令和5年度 「横浜市山内図書館」 収支予算書

収入の部						(税込、単位：円)
科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	188,481,000		188,481,000		188,481,000	横浜市より
利用料金収入			0		0	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入	0		0		0	
自主事業収入	100,000		100,000		100,000	
雑入	480,000		480,000		480,000	
自動販売機手数料等	480,000		480,000		480,000	
その他（ ）			0		0	
収入合計	189,061,000		189,061,000		189,061,000	
支出の部						
科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	107,793,700		107,793,700		107,793,700	
給与・賞金	91,923,900		91,923,900		91,923,900	賞金スライド
社会保険料	9,174,800		9,174,800		9,174,800	
通勤手当	5,936,000		5,936,000		5,936,000	
健康診断費	377,000		377,000		377,000	
福利厚生費	382,000		382,000		382,000	
事務費	4,655,000		4,655,000		4,655,000	
旅費	100,000		100,000		100,000	
消耗品費	1,400,000		1,400,000		1,400,000	感染症対策物品含む
通信費	500,000		500,000		500,000	
使用料及び賃借料	15,000		15,000		15,000	
備品購入費	200,000		200,000		200,000	
雑誌・新聞購入費	1,700,000		1,700,000		1,700,000	
施設賠償責任保険	120,000		120,000		120,000	
職員等研修費	20,000		20,000		20,000	
振込手数料	0		0		0	
リース料	100,000		100,000		100,000	
手数料（ごみ処理費）	500,000		500,000		500,000	
事業費	4,919,400		4,919,400		4,919,400	
自主事業費	4,101,000		4,101,000		4,101,000	商用データベース、座席予約システム料
自主事業費（図書取次サービス）	818,400		818,400		818,400	
管理費	40,342,900		40,342,900		40,342,900	
光熱水費	24,000,000		24,000,000		24,000,000	
電気料金	14,500,000		14,500,000		14,500,000	電気代高騰のため
ガス料金	5,500,000		5,500,000		5,500,000	ガス代高騰のため
水道料金	4,000,000		4,000,000		4,000,000	
清掃費	5,247,000		5,247,000		5,247,000	
修繕費	1,400,000		1,400,000		1,400,000	
機械警備費	880,000		880,000		880,000	
設備保全費	6,995,900		6,995,900		6,995,900	
空調衛生設備保守	1,991,000		1,991,000		1,991,000	
消防設備保守	396,000		396,000		396,000	
電気設備保守	1,221,000		1,221,000		1,221,000	
害虫駆除清掃保守	126,500		126,500		126,500	
建築設備保全費	2,186,800		2,186,800		2,186,800	
その他保全費	1,074,600		1,074,600		1,074,600	飲料水・ウォータークーラー水質検査、植栽剪定・草刈、煤煙測定業務
共益費	1,820,000		1,820,000		1,820,000	LED交換
公租公課	9,350,000		9,350,000		9,350,000	
事務経費	22,000,000		22,000,000		22,000,000	本部支援費（人件費、システム経費等）、研修教材費
支出合計	189,061,000	0	189,061,000	0	189,061,000	
差引	0		0		0	